

- 問1 1192年に源頼朝が朝廷から任命された武家の最高職であり、これによって鎌倉幕府の首長としての権限が正式に確立された役職の名前は何ですか。 (2015年 岐阜県公立入試 類似)
1. 太政大臣 2. 摂政 3. 関白 4. 征夷大將軍
- 問2 鎌倉時代の將軍と御家人の間には、土地を媒介とした強力な主従関係が存在していました。將軍が御家人の所領を保証したり、新たな所領を与えたりする行為を「御恩」と呼ぶのに対し、御家人が將軍への忠誠を示すために、戦時に軍役を担ったり、京都や鎌倉での警備任務（番役）を遂行したりする義務を何と呼びますか。 (2014年 愛媛県公立入試 類似)
1. 寄進 2. 奉公 3. 守護の設置 4. 下地中分
- 問3 鎌倉時代後半に元（モンゴル帝国）が二度にわたって日本へ侵攻した元寇のうち、1274年の文永の役から数えて二度目にあたる1281年の大規模な襲来を何と呼びますか。最も適切な名称を選びなさい。 (2023年 高知県公立入試 類似)
1. 弘安の役 2. 慶長の役 3. 承久の乱 4. 文永の役
- 問4 鎌倉時代、將軍と御家人の間には土地を仲立ちとした主従関係がありました。將軍が御家人の領地支配を認めたり、手柄に対して新たな土地を与えたりすることを「御恩」と呼びますが、対して御家人が戦時に軍役を果たしたり、幕府の警護を行ったりする義務を何と呼びますか。 (2024年 沖縄県公立入試 類似)
1. 公事 2. 役事 3. 寄進 4. 奉公
- 問5 紀伊国の阿氏河莊（あてがわのしょう）の百姓たちが、莊園領主に提出した「訴え状」の内容について述べた次の文のうち、当時の社会情勢を説明したものとして最も適切なものはどれですか。「この資料では、ある役職者が材木の納入を遅らせたり、百姓を私的に使役したりといった不正を働いている窮状が記されている。」 (2023年 三重県公立入試 類似)
1. 幕府から任命された地頭が、権力を背景に莊園領主の権利を侵し、農民への支配を強めていた。 2. 朝廷が派遣した役人が、幕府の許可なく独自の税を課したため、武士と百姓が団結して抗議した。 3. 御家人が莊園領主の代理人として、年貢を公平に徴収し、地域の平和を維持していた。 4. 各国に置かれた守護が、朝廷から派遣された国司と協力して、農民の生活を保護していた。
- 問6 鎌倉時代に、東大寺南大門の再建や金剛力士像の制作に見られるような、力強く写実的な文化が発展した背景として、当時の社会状況を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2024年 徳島県公立入試 類似)
1. 全国的な内乱が収束し、幕府が莫大な予算を投じて貴族的な豪華な装飾を推奨したため 2. 武家政権の確立により、武士の素朴で質実剛健な価値観が重んじられるようになったため 3. 遣唐使の廃止に伴い、大陸の影響を脱して日本独自の繊細な美意識が完成されたため 4. 南蛮貿易を通じて西洋の絵画技法が伝わり、解剖学に基づいた表現が普及したため
- 問7 北条泰時が制定した「貞永式目（御成敗式目）」の内容や性格について説明した文として、正しいものはどれですか。 (2020年 山形県公立入試 類似)
1. 源頼朝が定めた独自の法律を、すべての一般庶民が守るべき道徳として書き換えたものである。 2. 武士社会の慣習に基づき、地頭が莊園の年貢を差し押さえることを禁じるなど、公平な裁判の基準を定めた。 3. 農民の土地支配を保護するために、武士が農地に関与することを一切禁じることを目的としていた。 4. 朝廷の権限を制限するために、京都の公家たちが守るべき法律として、幕府が一方向的に通告した。
- 問8 元寇のあとの恩賞不足や生活難に苦しむ御家人を救済するため、1297年に鎌倉幕府が出した「永仁の徳政令」の内容として適切なものを次の中から選びなさい。 (2024年 沖縄県公立入試 類似)
1. 北条泰時が制定した御成敗式目に基づき、土地の売買を永続的に自由化した。 2. 織田信長が行った楽市令のように、市場の税を免除して商業の活性化を図った。 3. 御家人が借金の担保として手放した土地を、無償で取り戻させるように命じた。 4. 全ての国民に対して、当時の借金を一律に半分に減額するよう命じた。
- 問9 奈良時代の仏教から鎌倉時代の仏教への変遷と僧侶の活動について、その目的や背景を説明した文として正しいものを選択してください。 (2026年 和歌山県公立入試 類似)
1. 道元が奈良時代に禅の教えを確立させたことで、平安時代以降の鑑真や行基による民衆救済の活動が活発になった。 2. 行基が国家の許可なく民衆に布教したことは、のちの鎌倉時代に道元が戒律を厳格化する直接のきっかけとなった。 3. 鑑真が伝えた戒律は武士の間で流行したが、鎌倉時代に入ると行基の影響を受けた道元が念仏を唱えることを重視した。 4. 国家の保護を受けて戒律を整えた鑑真らの活動に対し、鎌倉時代の道元は個人の修行として座禅による救いを説いた。
- 問10 当時の戦いの様子を描いた記録では、元軍が日本軍に対して使用した、当時の日本にはなかった新しい兵器が描かれている。この兵器の特徴について述べた文として正しいものはどれか。 (2024年 和歌山県公立入試 類似)
1. 「連弩」と呼ばれ、一度に何十本もの矢を連続して放つことができる機械式の武器。 2. 「てつほう」と呼ばれ、火薬を用いて爆発時の音や光で敵や馬を驚かせる武器。 3. 「長槍」と呼ばれ、密集した隊列を組んで騎馬武者の突進を阻止するための長い武器。 4. 「石弓」と呼ばれ、日本の弓よりもはるかに遠い距離から正確に狙撃できる武器。
- 問11 鎌倉時代において、北条泰時が「御成敗式目」を制定した目的や背景を説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2023年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 江戸幕府が諸大名を統制するために、参勤交代や城の修築制限を法制化するため。 2. 聖徳太子が定めた道徳的な規範を、幕府の役人にも守らせて仏教を普及させるため。 3. 承久の乱の後に増加した土地をめぐる紛争を、武士の慣習に基づいて公平に裁くため。 4. 元軍の侵略（元寇）によって困窮した御家人を救済するために、借金を帳消しにするため。
- 問12 鎌倉幕府を開いた源頼朝は、1185年に朝廷から許可を得て、国ごとに新しい役職を設置しました。軍事・警察の職務を担い、国内の御家人を統率したこの役職の名称として正しいものを選んでください。 (2026年 千葉県公立入試 類似)
1. 執権 2. 六波羅探題 3. 地頭 4. 守護

答え合わせ・解説

問1	答え 4 征夷大將軍	源頼朝は、平氏を滅ぼした後に朝廷からこの職に任命されました。これにより、武士が中心となって政治を行う「武家政権」が名実ともに成立しました。幕府という言葉は、本来はこの役職にある者の居所を指す言葉です。
問2	答え 2 奉公	鎌倉幕府の根幹となった「御恩と奉公」の関係において、御家人が將軍に対して果たすべき義務が「奉公」です。具体的には、戦乱の際に自備の武器や軍勢を率いて駆けつける軍役や、平時の警備などが含まれます。これは、將軍が御家人の先祖伝来の土地を保証するなどの「御恩」を与えることに対する、双務的な代償としての性格を持っていました。
問3	答え 1 弘安の役	元（モンゴル帝国）の皇帝フビライ・ハンは、日本を服属させるために二度の遠征を行いました。一度目の1274年は「文永の役」と呼ばれ、二度目の1281年は「弘安の役」と呼ばれます。文永の役のアとに鎌倉幕府が九州沿岸に防塁を築いて警戒を強めていたなか、元軍は再び大規模な軍勢で日本を襲撃しました。選択肢にある慶長の役は安土桃山時代の朝鮮出兵、承久の乱は鎌倉時代初期に後鳥羽上皇が幕府を倒そうとして起こした戦いです。
問4	答え 4 奉公	將軍と御家人の結びつきは、土地を基盤とした双方向の契約関係にありました。將軍から受けた「御恩」に対し、御家人は「いざ鎌倉」という緊急時の軍役や、京都・鎌倉を警備する番役などを通じて義務を果たす必要があり、これを「奉公」と言います。
問5	答え 1 幕府から任命された地頭が、権力を背景に荘園領主の権利を侵し、農民への支配を強めていた。	阿氏河荘の百姓による訴え状は、地頭の横暴な振る舞いを具体的に示す貴重な資料です。鎌倉時代、現地の実権を握った地頭は、本来の職務を超えて荘園領主への年貢を滞らせたり、農民を不当に働かせたりすることが多く、各地で荘園領主や農民との紛争が絶えませんでした。
問6	答え 2 武家政権の確立により、武士の素朴で質実剛健な価値観が重んじられるようになったため	文化の特色は、その時代の社会の担い手の価値観を反映します。平安時代の貴族中心の社会から、鎌倉時代の武士中心の社会へと変化したことで、貴族的な優雅さよりも、実力主義の武士に好まれる力強さ、たくましさ、ありのままの姿を尊ぶ「写実的」な気風が文化全般に影響を与えました。
問7	答え 2 武士社会の慣習に基づき、地頭が荘園の年貢を差し押さえることを禁じるなど、公平な裁判の基準を定めた。	貞永式目は、武士のために作られた最初の法律です。それまで明文化されていなかった武士社会の慣習や道徳を整理し、地頭による不当な年貢の差し押さえを禁じるなど、紛争を解決するためのルールを明確にしました。この法律は武士の社会を対象としたもので、朝廷の支配下にある人々に適用される公家法とは区別されていましたが、その後の武家政治における法律の模範となりました。
問8	答え 3 御家人が借金の担保として手放した土地を、無償で取り戻させるように命じた。	鎌倉幕府は困窮した御家人を救うため、売却または質入れした領地を無償で取り戻させる「永仁の徳政令」を発令しました。これにより一時的に御家人の手元に土地が戻りましたが、貸し手である借上（かしあげ）などの業者が将来の不払いを恐れて金を貸さなくなったため、かえって経済的な混乱を招く結果となりました。
問9	答え 4 国家の保護を受けて戒律を整えた鑑真らの活動に対し、鎌倉時代の道元は個人の修行として座禅による救いを説いた。	奈良時代の仏教は「鎮護国家」の思想のもと、国家の平安を祈る性質が強く、鑑真による戒律の導入も、僧侶の質を維持し国家的な宗教制度を整える目的がありました。一方、鎌倉時代になると、不安な社会情勢の中で個人がどのように救われるかが重視されるようになり、道元は中国から伝えた禅（曹洞宗）によって、ひたすら座禅を組むという個人の修行のあり方を提示しました。行基は奈良時代に民衆への布教で活躍しましたが、道元とは活動した時代も目的も異なります。
問10	答え 2 「てつはう」と呼ばれ、火薬を用いて爆発時の音や光で敵や馬を驚かせる武器。	元軍は「てつはう」という、陶器などの容器の中に火薬を詰めた兵器を使用していました。これは爆発した際に激しい音と光を放つため、これを見たことがなかった日本の武士たちは驚き、特に爆音にパニックを起こした馬が制御不能になるなど、心理的・戦術的に大きな混乱をもたらしました。
問11	答え 3 承久の乱の後に増加した土地をめぐる紛争を、武士の慣習に基づいて公平に裁くため。	それまでの裁判は朝廷の律令に基づいて行われることがあり、武士にはわかりにくいものでした。泰時は、武士の社会で守られてきた道理や慣習を基準にすることで、御家人が納得できる公平な裁判のルールを確立しようとしていました。これにより、幕府による御家人の土地支配の権利をより確実なものにする狙いがありました。
問12	答え 4 守護	源頼朝は、対立した弟の源義経を捕縛することを名目に、諸国に守護を、荘園や公領ごとに地頭を設置する権利を朝廷から認めさせました。守護は主に国単位で置かれ、謀反人の搜索や逮捕、京都での警備（大番役）の催促など、軍事や警察に関わる役割を担うことで幕府の支配力を高めました。